

有休3日連続取得でボーナス支給 休みやすく働きやすい制度で支援



アウグ株式会社
代表取締役 藤川 玲央さん

アメリカでの勤務経験を 働き方の改善に活かした

1984年に用賀で創業したアウグ株式会社は、1991年から中町に本社を構えました。カー用品を中心に、家庭用・工業用ケミカルの洗浄剤・芳香剤・消臭剤などの商品開発と生産販売を手がけ、市販品から業務用商品、OEM事業(プライベートブランド商品)まで幅広く取り扱っています。2代目に当たる藤川玲央さんが代表取締役を引き継いだのが2021年。就任前はアメリカのホンダに勤務しており、そのときの経験が社員の働き方への取り組みにつながっているそうです。「私は本田技研工業に約13年間勤めていました。2016年から5年半はアメリカ赴任で、帰国を機に何か次の一歩を踏み出してみたくて、父の会社を継ぐことにしたのです」。



藤川さんが社長に就任して、まず最初に導入したのがフレックス制度。「ホンダではフレックスで働きやすかったので導入しました。9時～17時30分の固定勤務でしたが、コアタイムを10時から14時に設定し、それ以外は出社も退社も自由。残業しなくても済むよう、仕事配分や効率化を考えています」。以前は勤怠管理もままならなかったところ、アプリを導入して管理。現在では残業20時間を超える社員はいないそう。

さらに推進しているのがテレワークです。「アメリカ勤務時はコロナ渦で9割以上がテレワークだったこともあります。営業職が出先で仕事をするように、一般業務でもテレワークは可能だと考えたのです。例えば小さい子どもがいるお母さんの社員は、子どもが病気になっても、自宅で子どもを見ながらリモートワークができます。本人は元気で働きたいのに子どものために有休を使うことを解消したいと思っています。IT系が苦手な人もいますが、接続さえ手伝えば大丈夫。家族の都合や自分の体調によって利用するケースが多いですね」と藤川さん。



「社長が代わり、新しい血が入ったことで新しい世界が見えてきました。働き方もそうですが、業務でもカー用品という枠から家庭用品にも展開したことで、かなり面白みがあります」と常務取締役の小高英二さん



カー用品のケア商品のノウハウを活用して、家庭用品でも水だけで頑固な汚れを簡単に落としたり、ガラスコーティングで保護する商品等を開発

連休の有休取得を積極的に奨励して ワークライフバランスを推進

中小企業ならではの「人に仕事がついている」ことが課題だと藤川さんはいます。「大企業なら誰かが休んでもカバーできますが、社員9名の弊社では融通がつきにくい。だから一人ひとりを大切に、家族やプライベート事情を優先して長く仕事を続けてもらうようにしています」。2年前に産休・育休制度を利用した女性社員が2名いて、復帰当初は1日2～3時間の短時間勤務の準備期間を設け、徐々にフルタイム勤務に戻していきました。年3回程度、社員と1対1の面談をして、仕事やプライベートな悩みなども聞いているそうです。

有休取得を奨励したいと考える藤川さんは、「有給を3日間連続で取得するとボーナス5万円」という斬新な制度も設けました。「社員に『有休を取っても結局お金を使ってしまう』と言われたことがきっかけ。給与が高くなかった申し訳なさ、休みを取ってほしいけど、お金を使ってまた働かねば、となるのは悪循環かと思って。ボーナスがあれば3連休で旅行や買い物をする足しになるかも、と考えたのです」。年間休日を110日間から130～140日間に増やし、平日に会社全体の休日も設け、長期休暇を取りやすくしているとのこと。

社員の健康を考えた面白い取り組みが「喫煙者がタバコを吸わなかったら月5000円支給」という制度。「今、1名がタバコを辞めています。年間6万円もらえてタバコ代もかからなくなるし、すごいよってアピールしています(笑)」。

もともと、みなし残業という形で20時間分を含めた給与を支給していますが、例えば18時以降に電気を暗くして会社を閉めるなど、残業を減らす取り組みを考えているそうです。「取引先との紙のやりとりを電子化したり、オフィスの物を減らしたり、業務の効率化も工夫しています」。業績が上がって利益が出たら、その一部を社員に平等に分配することで、会社の利益を上げるモチベーションにつながるといいます。



有休以外に、子どもの学校行事への参加や通院・治療のための「ライフ休」、資格試験を受験する「スキルアップ休暇」など、さまざまな休日制度で、働きやすさを支援している

アウグ株式会社 | 中町5-2-2
TEL: 03-5707-5311 <https://augjapan.com/>

